

がん医療の質に挑む DPC時代のチャレンジ

新刊

Mayo Clinic
聖路加国際病院
千葉県がんセンター
静岡県立静岡がんセンター

編集 グローバルヘルス研究所

● B5判 98頁

● 定価(本体価格2,000円+税)

ISBN 978-4-902266-33-7

- ◆ 今、日本のがん医療は大きな転機に差し掛かっている。がん医療に大きな影響を与えるであろう2つの制度変革が地殻変動のように進みつつある。
- ◆ 1つは、がんの予防及び早期発見、がん医療の均てん化の促進、そして研究の促進など、国・地方自治体の責務を明確に規定した「がん対策基本法」(2007年4月1日から施行)。もう1つはこれまでの出来高方式に基づいた支払い制度に代わり、診断群分類別包括評価(DPC)と呼ばれる支払い制度が、急激に拡大しつつあり、DPCは急性期医療における大きなトレンドになり、急性期を担う病院として生き残るための「選択」ではなく、もはや「踏み絵」となった。
- ◆ 医師と病院にとっての大きなチャレンジは、この包括支払いの環境下でコストを抑えながら医療の質を維持、向上させることである。高額な抗がん剤や高額な画像診断が必要ながん治療においては、DPCによる包括化の影響が特に大きい。
- ◆ このような中、米国グローバルヘルス研究所は2007年11月にDPC環境下におけるがん医療をテーマにシンポジウムを開催した。2007年から、米国グローバルヘルス研究所は、日米でコミッティーを編成し、実証的なデータによる医療の質の研究を始めており、このセミナーはその第3弾であった。
- ◆ 米国からメイヨー・クリニックで脳外科医および「医療の質と安全委員会」の委員長を務めるDr.リチャード・ジーマーマンによるアメリカの医療における質の向上の基調講演。日本のがん医療の現場からは、聖路加国際病院プレストセンター長・乳腺外科部長の中村清吾先生、千葉県がんセンターのセンター長である竜崇正先生、静岡県立静岡がんセンター総長の山口建先生。そして、グローバルヘルス研究所の渡辺幸子主任研究員がDPCデータを用いた実証分析を紹介した。
- ◆ 本書は、このシンポジウムでの発表をまとめたものであり、がん医療の最先端からの問題定義、そして実証的なデータを駆使して行ったがん医療の質に関する考察である。



Contents

I. 基調講演

アメリカの医療における質の向上

1. アメリカの医療における質の向上
メイヨー・クリニック「医療の質と安全」委員長からの提言“信頼できるエビデンスとは?”
Medical Director of Mayo Clinic Hospital, Chair, Quality Council, Mayo Clinic, Phoenix, Arizona Richard S. Zimmerman, M.D.

II. Opinions from the Front Line ——日本のがん医療の現場から

1. 電子カルテシステムを利用した医療の質の評価
聖路加国際病院
プレストセンター長・乳腺外科部長 中村 清吾
2. 笑顔とチームワーク、そしてIT化によって、心と体に優しいがん医療を提供
千葉県がんセンター センター長 竜 崇正
3. がんの社会学—DPC時代の次に何がくるのか?
静岡県立静岡がんセンター 総長 山口 建

III. がん医療の実証分析

DPC実証分析から見る医療の質

1. 電子カルテシステムを利用した医療の質の評価
グローバルヘルス研究所(Global Health Institute)
主任研究員 渡辺 幸子

JMP 株式会社 日本医学出版

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-17-7 丸尾ビル 5F
TEL 03-5800-2350 FAX 03-5800-2351

www.jmps.co.jp

www.jmps.co.jp